



患者と世界をつなぐ架け橋へ



—vol.9の紹介—

- 1. ごあいさつP1
- 2. 「海外癌医療情報リファレンス」
活動報告P2
- 3. がんセミナー・勉強会P4
- 4. 監修者からP6
- 5. 翻訳者からP8
- 6. 副理事長からP9
- 7. スタッフから P11
- 8. 事務局からのお知らせ P12
- 9. 組織概要 P12
- 10. 協賛企業 P12

1. ごあいさつ

2020年東京オリンピックに向けて受動喫煙対策が課題になっています。タバコ規制の有効性は米国における1990年代以降の着実ながん死亡減少からも確認されます。日本周辺でも韓国、台湾、中国などで屋内禁煙化が進みました。取り残されたのは日本と北朝鮮くらいです。JTがばら撒く灰色の「政治献金 <https://www.sentaku.co.jp/articles/view/16430>」によって国民の生命と健康が障害を受ける由々しき事態です。英語圏では常識になっている情報が伝わりにくいことも一因でしょう。

今年もJAMTは信頼できる医学情報をお伝えしていきます。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ 理事長 久保田 馨

「海外癌医療情報リファレンス」 ウェブサイトリニューアル完成

前回の大幅なサイトリニューアルに続いて、さらに患者さんやご家族にとって最新情報が身近なサイトとなり、安定した運営ができるようデザインを一新しました。

(大日本住友製薬(株) ジョンソン・アンド・ジョンソン(株)をはじめ各協賛企業によるご支援)



2.『海外がん医療情報リファレンス』活動報告

2017年 5月	28日 LiveSTRONG Day ボランティア通訳 (JAMTより3名)
6月	2-6日 米国臨床腫瘍学会 (ASCO) 11日 第1回がんセミナー「肉腫と癌骨転移—最低限知っておくべき基礎知識—」 講師：遠藤 誠 先生 (九州大学病院整形外科) <前講座>医療翻訳ワークショップ 講師：北丸綾子先生 (理学博士) 22日 コクランジャパン記念特別セミナー参加 (ボランティア翻訳) 23日 第37回健康医療ネットワークセミナー NPO健康医療開発機構開催 (東京大学医科学研究所) 『海外のがん情報を提供するボランティア』野中副理事長講演
7月	27-29日 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会 (JSMO) 神戸 ペイシェント・アドボケイト・プログラム 22日 第1回理事会開催 29日 がん患者会シャローム 患者の集いにて活動紹介 野中副理事長
8月	1日 患者のための『放射線治療の副作用への対処』電子書籍発行 (ジョンソン・エンド・ジョンソン (株) 助成金活動) 20日 毎日新聞朝刊くらしナビ「がん あふれる不正情報」記事内に当サイトの紹介
9月	8-12日 第42回欧州臨床腫瘍学会 (ESMO2017) スペイン 野中副理事長出席 9日 字幕翻訳勉強会 講師：瀧ノ島ルナ先生 (フェロー・アカデミー講師、上智大学非常勤講師) 28-30日 日本癌学会 サバイバー科学者プログラム(SSP)野中副理事長参加
10月	14-15日 第58回日本肺癌学会学術集会／第18回世界肺癌学会議 患者家族向けプログラム 20-22日 第55回日本癌治療学会学術集会 ペイシェント・アドボケイト・プログラム
11月	4日 ボランティアスタッフ 名古屋ミーティング
12月	3日 第2回がんセミナー 「治る可能性のある悪性脳腫瘍と、まだまだ治らない悪性脳腫瘍、について」 講師：西川 亮 先生 (埼玉医科大学国際医療センター) <前講座>医療翻訳ワークショップ (今泉真希子) <参加報告>「欧州臨床腫瘍学会ESMO2017患者アドボケイト参加報告」(野中副理事長)
2018年 2月	25日 関西がんセミナー 「『薬が効く』とはどういうことか?～科学的根拠に基づいた医療 (EBM) で考える～」 講師：大野 智 先生 (大阪大学大学院 医学系研究科 寄附講座) 「肺がん治療の進歩～遺伝子変異と腫瘍免疫～」 講師：田中文啓先生 (産業医科大学 第二外科) 字幕翻訳勉強会 講師：寺田真由美先生 (吹替翻訳者)
3月	11日 第2回理事会／第1回総会

『海外がん医療情報リファレンス』ボランティアサイトでのがんの情報提供

ボランティア部門

☆『海外がん医療情報リファレンス』主な英文記事の発信元

- 米国国立癌研究所 (NCI) NCIニュース、ファクトシート、薬剤情報 (A-Z)
- FDA ニュース—新薬承認と安全性報告
- 学会ニュース—米国臨床腫瘍学会 (ASCO)、欧州臨床腫瘍学会 (ESMO)、米国癌学会 (AACR) のプレスリリース
- 大学 / 施設ニュース—MD アンダーソンがんセンター、ジョンズホプキンス、ダナファーマーがん研究所
- ミネソタ大学 MD アンダーソンがんセンター 専門家向け月刊ニュースレター「Oncolog」
- 英国医療サービス (NHS) など

☆ 患者会・他団体への提供

- コクラン日本語版、コクランレビューの要旨 (18本)、動画字幕 (2本)



<http://www.cochrane.org/ja/evidence>

- 乳がん患者会 ブーゲンピリア様「調査結果報告書」パンフレット英訳
- 欧州肉腫の会「SPAEN」サイトの肉腫解説ページ和訳

収益事業部門 (順不同)

- 厚労省「統合医療」に係る情報発信等推進事業・コクランレビュー翻訳 (大阪大・大野智氏)
- キャンサーネットジャパン季刊誌「海外がん医療 TOPICS」掲載
- 「KENKO JIMAN」(株)FRONTEO ヘルスケアへの記事提供
- ヘルスデーニュース関連要約提供
- メッドコアアソシエイツ (株)
- (株)ヘスコ・インターナショナル
- 福島医科大
- コクランジャパン
- 日本肺癌学会
- イーピーエス (株)

学会参加報告

今年も JAMT より参加しました。JAMT ボランティア翻訳者の参加は、ボランティア活動の向上につながります。ひとりでも多くの参加を期待しています。

第15回日本臨床腫瘍学会学術集会 (JSMO) 神戸

会期：7月27日 (木)～29日 (土)
会場：神戸コンベンションセンター
ペイシエント・アドボケイト・プログラム
(JAMTより1名以上参加)

第58回日本肺癌学会学術集会 / (第18回世界肺癌学会議同時開催)

会期：10月14日 (土)～15日 (日)
会場：パシフィコ横浜
患者家族向けプログラム
(JAMTより5名以上参加)



日本肺癌学会学術集会

第55回日本癌治療学会学術集会

会期：10月20日 (土)～22日 (日)
会場：パシフィコ横浜
ペイシエント・アドボケイト・プログラム
(JAMTより4名以上参加)

電子書籍化プロジェクト

(ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会助成金活動)

今年度も米国国立がん研究所 (NCI) ファクトシートを電子書籍化しました。「患者のための 放射線治療の副作用への対処」(3冊目) はamazon (kindle store)、kinoppy、ibooks、ヨドバシ.com 等各販売店よりご購入いただけます。



SPAEN (Sarcoma Patients EuroNet Association)

2009年4月にヨーロッパを中心に、肉腫患者の治療やケアを向上させる目的で設立されたSPAENのPatient



eCademies内の骨肉腫、軟部肉腫、デスモイド腫瘍、GISTなどの解説文を翻訳をしました。

海外癌医療情報リファレンス 2017年1～12月 アクセス数の多かった記事ランキング

記事タイトル
1 非浸潤性乳管がん (DCIS) 診断後の乳がんによる死亡リスクは低い / 米国国立がん研究所 (NCI) ブログ～がん研究の動向～
2 光免疫療法：近赤外線でがん細胞が死滅 / NCI (米国国立がん研究所)
3 リンパ腫患者の余命は、診断後の無再発期間2年経過で通常の平均余命にまで回復 / メイヨークリニック
4 BRCA1、BRCA2 遺伝子：がんリスクと遺伝子検査 / 米国国立がん研究所 (NCI) ファクトシート
5 がんに対する標的免疫療法の進展 / 米国国立がん研究所 (NCI) ブログ～がん研究の動向～
6 コーヒーが、乳がん治療薬タモキシフェンの効果を高める可能性 / 英国医療サービス (NHS)
7 ルミナル A 乳がんでは術後化学療法の効果は認められず / 米国がん学会 (AACR) サンアントニオ乳がんシンポジウム (SABCS) 2015
8 若年甲状腺がんでもリンパ節転移あれば悪性度が高い / デューク大学医療センター
9 手術後に放射線治療を受けない非浸潤性乳管がん患者の長期的転帰 / キンサーコンサルタンツ
10 治療が終了した後に一認知機能の変化 / LIVESTRONG
11 アブラキサンは膵臓癌患者の生存を改善する / キンサーコンサルタンツ
12 専門医に聞く：乳癌に対する食事と運動の効果 / キンサーコンサルタンツ
13 低腫瘍量の濾胞性リンパ腫では、再燃後リツキシマブ再治療は同維持療法に匹敵 / 米国国立がん研究所 (NCI) 臨床試験結果
14 甲状腺未分化がん / MD アンダーソン 月刊 OncoLog 誌 2016年4月号
15 前立腺癌に対するホルモン療法 / NCI ファクトシート
16 化学療法中の癌患者への白血球増加剤 (G-CSF) 投与について / Choosing Wisely
17 CAR-T 細胞免疫療法、難治性リンパ腫に完全寛解 / 欧州臨床腫瘍学会 (ESMO) 米国血液学会 (ASH) 2016
18 EPOCH 療法 [EPOCH 療法]
19 ナバパクリタキセルとゲムシタピンの併用で転移性膵癌患者の生存率が改善 / NCI 臨床試験結果
20 治療が終了した後に一末梢神経障害 / LIVESTRONG

★最新翻訳ニュース2週間に1度お届けします。ご希望の方は、「海外がん医療情報リファレンス」トップページより、メルマガ配信登録をお願いします。

2017年にアップされたNCI翻訳動画

腎臓がん、腎盂がん 知っていますか

光免疫療法：近赤外線でがん細胞が死滅

がん統計 知っていますか?

がんの転移とは

DNAシーケンシングの意義

子宮体がん(子宮内膜がん)

2017年にアップされたコクラン翻訳動画

"2020年への戦略" 実現に向けて各国の取り組み

2020年への戦略-2016年の計画

3.がんセミナー・勉強会

2016年度第3回がんセミナー

テーマ:「医療系のための統計の基礎」

■日 時:2017年2月12日(日)14:30~16:30

■講 師:石井一夫先生
(久留米大学 バイオ統計センター)

「統計はサイコロばくちと同じ」とおっしゃる石井先生によるお話は、専門的ではありませんでしたが統計への苦手意識が払拭されるようなセミナーとなりました。統計の基礎(95%信頼区間、標準偏差、正規分布など)、医療分野における統計、また、大規模データ解析による個別化医療の展望についてもご教示いただき、統計学が注目される中、多く参加のあった外部翻訳者の方からも好評をいただきました。治療方針の決定は統計により得られたデータに基づいており、統計の知識を身に付けることの大切さを改めて感じる内容でした。

講義終了後、じゃんけん大会による石井先生の最新書籍のプレゼントがあり、最後まで盛り上がりました。



翻訳ワークショップ 13:30 ~ 14:10

「医療翻訳での統計について」

石崎智子 (JAMT 医療翻訳講座 講師)

今回のがんセミナーのテーマに伴い、医療翻訳に欠かせない統計の知識を得るための学習方法について、参考書籍、役立つサイトの紹介がありました。また、統計表現について実例に基づき解説、実習があり、今後の学習指針が示されました。

2017年度第1回がんセミナー

テーマ:「肉腫と癌骨転移—最低限知っておくべき基礎知識—」

■日 時:2017年6月11日(日)14:30~16:30

■講 師:遠藤 誠 先生(九州大学病院整形外科)

日々患者さんに接し、海外でも活躍されている遠藤先生に、世界における日本の状況を踏まえお話しいただきました。



希少がんである肉腫の生物学的および統計学的な特性など基本的な背景から、各治療法の知識や臨床

試験の現状について解説いただきました。がん骨転移についても診療のあり方など広範囲にわたって、画像とデータに基づきご説明いただきました。患者会からのご参加もあり、熱心な質疑応答で参加者全員が疾患についての理解を深められました。



翻訳者に意義のある貴重な知識を得る機会となり、遠藤先生の治療に対する熱意が胸に響くご講義でした。

翻訳ワークショップ 13:30 ~ 14:10

「wordマクロを使った辞書の引き方と訳文を練り上げるコツ」

北丸綾子先生 (理学博士)

JAMT 監修者として、またプロの医療翻訳者としての立場から、翻訳者は英語力は高いが日本語力が乏しい方が多いというきびしい指摘がありました。過不足なく正確性ある訳文に仕上げるための心構え、辞書やサイトをいかに使いこなして翻訳力を上げるか、実演を交えてご講義いただきました。

第2回がんセミナー

テーマ:「治る可能性のある悪性脳腫瘍と、 まだまだ治らない悪性脳腫瘍、について」

■日 時:2017年12月3日(日)14:35~16:30
■講 師:西川 亮 先生
(埼玉医科大学国際医療センター)

希少がんの一つ、脳腫瘍について、脳腫瘍と一口にいっても悪性度は様々であるため、<治る腫瘍>と<まだ治らない腫瘍>に着目し、手術の動画や写真を織り交ぜてお話しいただきました。脳腫瘍は小児のがんとして白血病に次いで多いがんとすることで成育途上にある小児特有の問題があること、治療困難な膠芽腫は化学療法と併用することで治療成績が向上していること等々、具体的な現状や問題点について知ることができました。日本脳腫瘍ネットワークなど患者さんも参加いただきました。

日本の脳腫瘍治療の第一線で活躍されている西川先生の、困難と分かっている問題に敢えて挑み続ける姿勢が印

象的でした。お話の後は、患者さんやご家族、翻訳者、それぞれの立場からの多岐にわたる質問にお答えいただきました。



ESMO 参加報告 (野中副理事長) 14:15 ~ 14:30

9月8-12日スペイン、マドリッドで開催されたESMOへの参加報告、詳細はP10に掲載。

翻訳ワークショップ 13:30 ~ 14:00

「メディカル翻訳の重要用語と脳腫瘍の翻訳にチャレンジ」

今泉真希子 (JAMT 医療翻訳講師)

恒例となりました医療翻訳の実例と検証のワークショップ、今回も練習問題を解きながら、「efficacy」と「effectiveness」や「重篤」と「重症」の区別ほか、重要な用語について学び、脳腫瘍の翻訳における基礎知識を改めて見直し、参加者全員で演習を行いました。



ESMO 参加報告
(左 ローリンさん
右 野中副理事長)

関西がんセミナーについては次号でご報告します 2018年2月25日(日)

「薬が効く」とはどういうことか? ~科学的根拠に基づいた医療
(EBM)で考える~

講師:大野智先生(大阪大学大学院医学研究科)

肺がん治療の進歩~遺伝子変異と腫瘍免疫~

講師:田中文啓先生(産業医科大学第2外科/呼吸器)

「字幕翻訳勉強会」寺田真由美先生(吹替翻訳者)

JAMT推奨講座

■放送大学<平成30年4月入学>

申込期間:第1回 12月1日~2月28日

第2回 3月1日~3月20日

講座名:がんを知る(16) がんとともに生きる(18)

■臨床研究eラーニングサイト「ICR臨床研究入門」

https://www.icrweb.jp/icr_index.php

■JAMT 医療翻訳講座

お問い合わせは JAMT 事務局まで (P12参照)

字幕翻訳講座

■日 時:9月9日(土)10:00~12:00

■講 師:瀧ノ島ルナ先生

課題「腎臓がん・腎盂がん」

参加者:ボランティア翻訳者 山岸美恵野

字幕翻訳講座に参加しました。

まず、字幕の字数の数え方や記号の使い方の説明がありました。事前課題の段階では、よく理解できていませんでしたが、講義でルールの意味がよく理解できました。「見て、聞きながら、読む」のが字幕であり、「ひとめで理解できるように、句読点ではなくスペースを使う」「言葉の途中で区切らず、改行を工夫する」ということがわかりました。

事前提出課題が動画に合わせて流れるのを見て大変感動しました。「流れていく字幕ならではの工夫」を具体的に指摘していただけて理解が深まりました。



「字幕からの情報は3~4割」というお話が印象的でした。画面の中に表示されている動きと字幕の内容がうまく同期していることが大変重要だと感じました。

このような機会をいただき、ありがとうございました。

4. 監修者から



必要とされる情報をわかりやすく

近畿大学医学部附属病院 腫瘍内科 野長瀬 祥兼 先生

私がJAMTに出会ったのは、医学生
の頃でした。教科書で勉強する一方で、
分かりやすい、新しい情報を求めてイ
ンターネットで調べ物をしている中で、NCIキャンサーブ
レティンなど信頼できる情報を、質の高い日本語訳で提供
されているのがJAMTのホームページでした。調べたい内
容を検索エンジンで調べていくと、不思議とJAMTのペー
ジにたどり着くことが多くありましたが、最新の内容を正
確な日本語訳で提供されていたことがその理由だと思いま
す。

将来は癌に関連する診療科を希望していたことから、自
分の勉強にもなるとの思いで、翻訳のお手伝いを始めさせ
ていただきました。英文の内容が理解できずに直訳で提出

した時などは丁寧な解説とともに、読みやすい日本語に直
していただいたり、逆に分かったつもりで意識しすぎて英
文の内容とずれてしまっていたりしているところを的確に
監修いただき大変勉強になりました。

現在は腫瘍内科を勉強中ですが、治験や臨床試験、免疫
療法、遺伝子診断に基づいた診療など、ますます新しい情
報が増えてきています。監修をさせていただいていますが、
つい最近も初めて聞く薬剤に関する情報であり、元論文を
読んでやっと内容が理解できるものでした。今後も主要学
会、主要英文雑誌の最新情報をわかりやすく提供させてい
ただくお手伝いができればと思います。よろしく願いいた
します。



正しい医療情報と商業的な広告が 氾濫する時代のネット利用

神戸大学 大学院医学研究科 腫瘍・血液内科学 北尾 章人 先生

みなさま、初めまして。神戸大学の
北尾です。私が当会の医療情報監訳のお誘いを受けたのは
前任地で Cancer Board 講演会を開催した際に東先生を
講師でお招きした時でした。当時は過疎地域でのがん診療
に従事しており、日々の診療で患者さんやご家族に医療情
報を正しく得ていただくにはどうすればよいか考えていた
時です。

さて、すでに皆さまご承知の通り昨今はITの発達により、
一昔前とは比べ物にならないくらい情報へのアクセス・
取得が容易になっています。米国臨床腫瘍学会 (ASCO)
は今も昔も世界最大規模の腫瘍学会ですが、近年では
virtual meetingにより会場での発表の翌日には動画が
アップされ、どこにいても視聴できます。(もちろんそれ
なりのお金はかかります) また、インターネットに接続す
るための機器もどんどん安価になり小型化も進み操作も容
易になってきています。

これらは、我々医療従事者しか知りえなかったような情
報に誰でもアクセスできるようになったという点で患者さ
んにも非常に大きな恩恵を与えたものだと思います。しか
し、一方で質の低い医療情報が氾濫し医師が監修したもの

であっても、記事内容が取り下げになるような事例も見受
けられます。また、耳触りが良い言葉で、必ずしも科学的
裏付けがない情報を提供している商業目的のホームページ
がある事も事実です。情報へのアクセスが誰でも容易にで
きるようになったが故に、それを咀嚼し解釈する必要性は
今まで以上に高まっています。ただ、一般の患者さんやそ
のご家族が医学情報の裏付けを取ったり、十分に理解して
解釈したりするのは非常に困難であり不可能に近いとも
言えます。監訳者は専門知識を生かして、その情報の根っこ
にある背景や行間にこめられている意図をくみ取り、記事
内容をさらに生きたものにするのが役割であると考えてい
ます。

現在最新の情報が今後10年間違っていかないという保証
はどこにもありませんが、現在取りうる最善の選択をする
一助になるのは間違いありません。様々な分野でグローバ
ル化が当たり前の時代に、医療の主役であるはずの患者さ
んだけ取り残されるわけにはいきません。当会の活動を通
じて一人でも多くの方に質の高い最新情報が届けられる事
を願います。今後ともよろしく願いいたします。



JAMTへの期待

宮城県立がんセンター 放射線診断科

松本 恒 先生

私は大学卒業以来、約40年間、主として放射線医学分野で癌の診断、治療に従事してきました。随分多くの症例を見てきましたが、いまだに臨床的には学ぶべきことが山ほどあります。

ところで、「癌」は私が医師になりたてのころから国民の圧倒的な関心事です。当然のことながら、多くの人々が「癌」についての情報を渴望してきました。私が医療の世界に踏み入れた頃は医学・医療情報は医療従事者、特に医師に偏在していました。一般の国民が情報を手に入れる手段は新聞報道、書籍、そしてわずかなTV情報を介する以外の方法はありませんでした。医学論文を読む機会などほとんどありませんでした。しかし、1990年代から状況は一変しました。インターネットの登場です。この画期的な「情報媒介」が医療を取り囲む風景を激変させました。そして、情報は今もなお指数関数的に増加しています。癌に関心のある人々は「分子標的薬」とか「重粒子線治療」という言葉は知っており、その気になれば、極めて容易にそれらの概説、さらには個々の事例についての詳細な解説を知ることができます。このように、医学知識・情報の平準化、対称化が急速に起きています。

さて、インターネット経由の医学・医療情報の氾濫は取

りも直さず情報の精選を必要とします。また、世界的な視野でいえば、大部分の情報は英語により飛び交っているのが現状です。従って、真に国民が適切な情報を得るには海外からの英語での情報を入手することが不可欠です。ところが、英語での情報のやりとりについては、送り手と受け手の間の見えない障害物（敢えて例えれば「スリガラス」のようなもの）があり、個々人によってその透明度が異なります。このような状況にあって、JAMTが達成しようとしていることは有意義かつ重要なことです。Google Translate を試してみればわかるのですが、主旨はわかるとはいえ、残念ながらAI翻訳はいまだ快適に文章を読むことができる段階には至っていないようです。いま暫く人間による翻訳は必要とされています。また、動画による医学情報（研究機関のみならず企業のものも含め、大変有用です）になると、日本語字幕がなければ一般人はとても見気にはならないでしょう。ここでもJAMTの活躍が評価される所以です。

英語文字情報でも動画情報でも、患者あるいはその家族にしてみれば喉から手が出るほど貴重なものです。JAMTが継続的、発展的にそのような人々の期待に応えられますように、益々積極的に、海外の英語情報を適切、的確に提供されんことを願います。



早期開発の変化

国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科/先端医療科

下村 昭彦 先生

私は腫瘍内科として、乳がん治療を中心に幅広く薬物療法を行なっております。また、第I相試験に関わり、新薬の早期開発にも関わっております。ご縁があり、2014年に今の施設へ異動したときからJAMTの監修に関わらせていただいております。

さて、JAMTの情報に関わっていらっしゃる方なら馴染みがあると思いますが、抗悪性腫瘍薬の開発は化合物の同定、合成などののち、細胞実験、動物実験を経て、ヒトに初めて投与される第I相試験で毒性を指標に用法・用量が決めます。その後、第II相試験で有効性や毒性についてのデータを集めたのちに第III相試験で試験治療と標準治療（標準治療がない場合はプラセボや支持療法など）を比較検証して、有効性が証明されると承認、販売へ至っています。そのため、これまでは新薬の開発には10年以上の月日が費やされることが少なくありませんでした。

ところが、ここ数年で新薬開発の方法が大きく変わりつ

つあります。I相、II相、III相という区分が曖昧になってきており、第I相試験の拡大コホートの中で対象疾患や有効性の検討が行われ、直ちに第III相試験へ進むことも珍しくありません。ある免疫チェックポイント阻害剤は、第I相試験に1,000名以上の患者さんが参加していると言う、これまで考えられないような規模の試験となっています。また、特定の遺伝子異常を対象とした薬剤では、90%以上の患者さんで奏効が得られるものの、そもそも異常の頻度が低く第III相試験を行えない場合もあります。数年前に第I相試験で関わった薬剤が、すでに日常臨床で使われていると言う状況に遭遇することが少なくありません。まさに、現在の薬剤開発は秒進分歩の状況であると思います。

日々監修させていただく中で、このような薬剤を題材として取り扱うことも多く、非常に早い情報の流れについていかれる翻訳される皆様の努力には頭が下がります。監訳者として翻訳者のみなさまと力を合わせながら秒進分歩の新薬開発の情報を正確にお伝えし、治療選択の一助となればと思っております。

5. 翻訳者から



「JAMTから広がる世界」

工藤 章子

JAMTの翻訳ボランティアを始めてから、早いもので四年目に入りました。四年とはいっても、ときどき休みを挟みながらマイペースにここまで来た、という感じです。仕事で医療関係の論文に触れる機会が多く、医療翻訳の基礎を一度しっかり勉強しなければと考えていたとき、偶然JAMTのホームページを見つけたのがボランティアに参加するきっかけとなりました。がんセミナーには当初からできる限り参加するようにしてきましたが、今年は、それ以外にも新しいことに挑戦できた特別な一年となりました。

一つは、放送大学の「がんを知る」講座を受講したことです。その第1回目の講義で、「がんを正しくおそれる」という印象的な言葉との出会いがありました。知らないことはむやみに恐れることにつながる。正しく相手を知ることとそれを乗り越え、向き合えるようになる。そういう意味が込められた言葉でした。知らなければおそれることもないと思い込んでいた私にとって、この言葉は衝撃的でし

た。JAMTの活動もまさに「正しくおそれる」ことを支えるものではないでしょうか。

そしてもう一つは、医療翻訳講座（基礎コース）の受講です。夏期集中講座ということで、通常9回のコースを5回で受けることができました。授業は、医療の基礎知識に関する講義のあと、課題の英文の訳を皆で確認するという流れで進められますが、意外だったのは、英文を声に出して読むことでした。単語を声に出して読むことで、英文の見え方が変わってくるというのは新しい発見でした。また、他の方の翻訳を聞くことで自分の翻訳のクセに気づき、表現の幅を広げることができました。

一度立ち止まって医療翻訳の基礎を学習したことで、長年のもやもやした気持ちが少し晴れたような気がします。さらにステップアップできるように、来年もまた新しいことにチャレンジしたいと思っています。



「これまでの活動を振り返って」

大澤 朋子

私がJAMTの活動に参加するようになったのは、当時の仕事だった医薬品専門の広告代理店でのライターとして医療用語の和訳をネット検索していた時に偶然Canceritのサイトに出会ったことでした。それが2015年頃だったと思うので、すでに2年強、お世話になっていることとなります。

もともとは自分の翻訳力を高める目的で始めたのですが、ある日、前職の友人が、親戚のがん患者さんのための情報収集をしていたところCanceritで私の名前が翻訳者として掲載されている記事を読んだと話してくれて、初めて自分の経験・知識の蓄積が他者の役に立つこともあることに気づかせてくれました。それ以来、また違った意味でモチベーション高く参加させてもらっています。

今年は初めての英訳にも挑戦し、加えて電子書籍の校正、コクランの担当など新たな経験を積むことができました。特にコクランは学術的な意味合いがほかの記事より強いので

勉強になりますし、校正はもう一人の担当者である佐治さんと相談しながらなのでありがたいと思っています。業務内容を把握するまでは大変でしたが段々慣れてきました。そうしたことが少しずつ自分の自信につながっていると実感します。

私のここ数年間の本職は医薬品の市場調査の仕事なのですが、JAMTでの翻訳は最新情報を得ることができるので、本職にインプットを得られる良い機会とありがたく思っています。

そんな中で常々疑問に思っていることは、JAMTの活動はどのくらいがん患者さん・ご家族の役に立てているのだろう、ということです。既述ですが、やはり自分たちの活動の意味を認知できることは今後の活動にとっても大きなモチベーションになるので、可能であれば定期的にFBをいただけるとすごくうれしいと思います。



「翻訳の難しさ」

平沢 沙枝

JAMTのミッションに、「海外の情報を、読みやすく質の良い日本語にして…」とありますが、翻訳というのは本当に難しいと思います。

例えば英語圏の方が友達同士で“Hi !”と挨拶する時。Hi

の訳として、辞書には「こんにちは、やあ」と載っていますが、「こんにちは」では距離感が微妙ですし、「やあ」という言葉は実際あまり使われないように思います。なかなかいい日本語が思いつかないだけでなく、そもそも自分

が友達に会った時に、Hiにあたる言葉は言わない気がします。

他にも、ニュースとなったwise spendingという言葉は「賢い支出」と訳されるそうですが（違っていたら申し訳ありません）、いわゆる直訳っぽい印象を受けてしまいます。また医療翻訳でもJAMTでやり取りする中で、precision medicineの訳について悩んだことは記憶に新しいです。

私はこのようにいい日本語が見つからない時、ついそのまま英語で表記したいと考えてしまいます。ですが、それで終わらせてしまっては、このサイトがみんなに分かりやすいものではなくなるので、やはりふさわしい言葉を探す努力をしないといけないな、と思います。プロの翻訳者の方は短い時間で最適な言葉を見つける技術をお持ちなの

だと改めて思います。

私は今年度スタッフもしていますが、時々監修の先生方から「もう少しいい言葉があればいいのですが」とコメントをいただくことがあり、翻訳の難しさを感じます。ですが同時に、ふさわしい言葉を探すのは楽しい作業でもあります。訳者さんから翻訳を提出していただいた時も、こんな表現の仕方があったのか、などと思いながら原稿を読ませていただいています。今後も皆さまとのやり取りの中でこの難しさを楽しみつつ、良質な翻訳のサイトとなるように頑張りたいと思います。

副理事長の野中さん、監修の先生方、翻訳者の皆さま、すべての方に貴重な機会をいただき感謝しています。JAMTのますますの発展をお祈りしています。

「正しい医療情報の橋渡し役として」 栗木 瑞穂

ボランティア翻訳者としてJAMTの活動に参加させていただいてから1年が経ちました。数年前まで主にバイオ分野などの基礎研究の翻訳に従事してきましたが、基礎研究が実際に生かされている医療の現場を見てみたいと思い立ち、4年ほど前から地元のがん専門病院で医師事務補助として働き始めました。そんな中、院内の医療英語勉強会でJAMTの監修をされている当院の先生が海外がん医療情報リファレンスを紹介してくださったのが、JAMTとの出会いでした。ボランティアでこんなに素晴らしい翻訳をしている方々がいらっしゃることに感銘を受け、その後、私も仕事を通じて少しずつ勉強し、昨年末に、少しはお役に立てるだろうかと恐る恐る活動に参加させていただきました。

仕事柄、外来診療時に患者さんと医師の会話を耳にする機会が多いのですが、玉石混合の医療情報に患者さんが振り回されている様子を少なからず見てきました。それに対

してここ数年、正しい医療情報を患者さんに届けようという医療者側の努力が熱心に行われるようになったと感じます。JAMTの活動はまさにその先駆けであり、私も翻訳する際には、患者さん方にわかりやすい文章にするために常に試行錯誤しております。その一方で、職場の医師に「見ましたよ」と声をかけられ、先生方も読んでいます！ということに気づき、わかりやすく専門的にもおかしくない言葉の選択に悩んでいます。監修の先生方に添削していただいた文章は過不足なくわかりやすく、自分の未熟さに恥じ入りながら、たくさん勉強させていただいております。

このような優れたサイトが、ご多忙な先生方とボランティアの方々の手で運営されているのが不思議で仕方ありません。私はまだ活動全体のほんの一部分でしか貢献できておりませんが、微力ながら未永く患者さんへの情報の橋渡しをお手伝いさせていただけたらと思っています。

6. 副理事長から

高齢者のがんケアと社会的支援

副理事長 統括責任者 野中 希

2017年、ボランティア翻訳者、監修者、そしてご支援くださった皆様のお蔭をもちまして、本年度も400を超える多くのがん情報を提供することができました。今年度は、患者団体への通訳協力に始まり、会員さんらと国内外の学会への参加、そして肉腫および脳腫瘍と稀ながんに焦点を当てたJAMTがんセミナー、海外サイトへの翻訳提供など、がん患者さんらとの交流が盛んで活気ある年でした。

6月には翻訳プロジェクトで参加しているコクランライ

ブラリーの日本支部が独立してコクランジャパンとなりました。また、有償部門で協力させていただいている当監修者大野智先生（大阪大学）「[統合医療] 情報発信サイト」のほうでも多くの進展がありました。

一方、私自身は、2016年終わりごろより関西に住む母に急な認知症が、そしてその後、昨年夏頃より膀胱から子宮にがんがあることが発覚し、私自身が頻繁に介護のため関西と東京を往復することになり、みなさんにもご迷惑を

おかけしました。見つかった時点ですでに最終病期であったことから最後は緩和ケア病棟へ入院し、1カ月半後、妹とともに穏やかに母（79歳）を見送ることができました。

本人は独居でしたが、それまで全く元気な母で、私たち家族も突然のことに病院に連れて行くのも一苦勞、介護や在宅ケアのサービスを受けるのも一苦勞で、緩和ケア病棟に入るまでのいきさつや葛藤は書ききれません。本人は年齢的に積極的な治療を望まずでしたが、本人の意向を受け入れながら、治療やケアはもちろん、整った環境の中で、安心して最期を迎えさせてあげたい一心で妹も私も奔走しました。

16年前に経験した若い人（義弟）のがんと高齢者のがんは全く違い、異なる視点で考えなければならないこと、必要な情報も異なることを痛感しました。大学病院、緩和ケア病棟、介護や在宅支援サービス、養護老人ホームなどのありがたい支援制度も、それぞれが繋がっておらず、その都度、その間の溝に落ちてしまいがちでした。いい制

度があってもその情報を知っている人しか利用できないのだとも感じました。患者・家族の立場からはとても心細く困り果てた今回の経験から、高齢化社会の問題を垣間見る機会となりました。今後益々の高齢化社会の

医療に備え、がんになった高齢者の方々をサポートする制度をどう整備すればよいのか、シニアおよび家族フレンドリーに改善していただければと思います。



第76回日本癌学会「サバイバー・科学者プログラム」でのポスター発表

学会参加報告

副理事長 統括責任者 野中 希

**ESMO が熱い！
学会が熱い！**

●欧州臨床腫瘍学会(ESMO)学術集会2017参加報告

9月8-12日スペイン、マドリッド 演題も参加者数も過去最高を更新するESMOにて、学術集会に組み込まれて2年目の患者アドボカシートラックに参加しました。欧州各国および若干欧州以外の国から患者代表者が参加し、Bettina Ryle氏を中心としたワーキンググループ主導で熱意ある集会が開催されました。

開催前にまず、「プレESMO」にて患者が学術集会に参加するうえでの有用なヒントがもらえました。学会は1、教育講座、2、最新発表演題（口頭／ポスター）、3、特別シンポジウムで構成されること、ポスターセッションの見方や質問の仕方など、さらには、演題募集は最大で2年近く前に応募されたものであるため、＜学会発表は現時点での最新ではない＞可能性があり、正確には最新情報を入力する必要があることにも言及されていました。

『患者にサイエンスを！オピニオンにはデータを！』という理念のもと、「企業との協働—利益相反にどう対処するか」「免疫療法薬の副作用」「ファーマコビジランス（副作用を報告しよう）」などの啓発から「まれながん—国内外で

統合して治療開発を進める取り組み」の紹介、「がんリハビリテーションによって治療後の社会復帰へつなぐ」のディスカッションもあり、患者支援に重要なトピックの講演や議論がなされました。

国際的な患者支援者の方々と意見交換やネットワークの構築もでき大変有益でした。



昨年3月、わが国でも厚労省が「希少がん医療・支援のあり方に関する検討

会」が設置されました。患者会13団体が参加して日本希少がん患者会ネットワーク（Rare Cancer Japan）が設立されました。同会を代表して眞島義幸氏（NPO法人パンキャン ジャパン理事）とローリン氏（日本脳腫瘍患者ネットワーク理事）も参加されていました。

●日本癌学会 サバイバー・科学者プログラム(SSP)

患者支援者が同学術集会に全日参加し、がん研究に対する患者支援者の理解と知識を深めるプログラムで。米国癌学会（AACR：American Association for Cancer Research）で20年前から行われてきました。日本での開催は2年目になります。自身の活動のポスター発表と、最終日には、決められたトピックに関するグループ発表をします。今年の課題は「プレジジョン医療」と「免疫療法」。AACRでSSPを立ち上げたMargaret Foti氏も来日し挨拶されました。

●日本肺癌学会学術集会／世界肺癌学会議

●日本癌治療学会

●日本臨床腫瘍学会

第76回日本癌学会 SSP プログラム。学会理事長の宮園浩平氏（真中）、総会会長の中釜斉氏（左隣）、同役員の野田哲生氏（右隣）他と修了証を手にする参加者ら。



8. スタッフから

MDアンダーソン、Oncolog 担当: 高橋多恵

MDA オンコログ、ランク評価、用語集などを担当しています。不慣れな中、皆様のおかげで何とかここまで来られました。いつも本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

NCI 動画担当: 山口夏代

字幕講習会に参加していただき、新しく字幕翻訳をお願いできる翻訳者の方が増えています。ご指導いただく寺田先生、瀧ノ島先生、今後ともよろしくお願いいたします。最近の動画は、美しくわかりやすく制作されているものが多いので、是非皆さまもご覧になってください。

医療ニュース担当: 山田登志子

医学の専門知識はありませんが、翻訳者として、読みやすい日本語、翻訳であることを感じさせない自然な日本語の記事となるように心がけています。監修の先生方にはいつも丁寧にご指導いただき、ありがたく存じます。

NCI ファクトシート

その他の公的記事担当: 日ノ下満里

翻訳者の皆様、監修の先生方には、お忙しい中 JAMT の活動にご協力いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。毎日のように Web サイトで情報を発信できるのも、皆様のご協力あってこそのことと日々感じています。今後とも信頼できるがん医療情報を、必要とされている方にお届けできればと思います。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

NCI 薬剤情報担当: 張知子

今年から NCI 薬剤情報を担当させて頂いております。微力ながらスタッフとしてお手伝いさせて頂き、多くのことを学ぶことができました。今後とも日々進歩するがん治療薬の情報提供に少しでもお役に立つことができればと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

NCI ブログ担当: 林さやか

皆さまにはいつもご協力いただきありがとうございます

います。今年度は担当した記事が比較的多かったのですが、翻訳者の皆さまがすぐにエントリーして下さって、とてもスムーズに記事を掲載することができたことが多くとても印象的でした。今後ともよろしくお願いいたします。

FDA ニュース担当: 岐部幸子

FDA スタッフ2年目になりました。速報が出るたびに毎回緊張して翻訳打診をかけておりますが、皆様から迅速なご協力を頂いております。監修の先生方、ボランティアの皆様、いつもありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

学会ニュース担当: 青山真佐枝

今年度から学会ニュースを担当しております青山と申します。5~6年前に専門雑誌で JAMT の活動記事と出会い、いつか参加できればとの思いで、約2年前に当会に入会いたしました。現在スタッフとして貴重な情報を多くの方々に提供のお手伝いをさせていただくなかで、翻訳者の皆様、監修の先生方、スタッフの皆様から大変多くのことを学ばせていただき心より感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

学会ニュース担当: 橋本奈美

監修の先生方にはお忙しい中、丁寧にご指導いただき大変感謝しています。また、翻訳者さんもハイレベルな方が多く、教えられることばかりです。今後とも、JAMT の一助になればと思っています。よろしくお願いいたします。

大学・施設ニュース担当: 平沢沙枝

スタッフとして私が一番好きな作業は、皆様とのやり取りです。翻訳者さんや先生方の記事に対する思いを聞いたり、海外の方とのやり取りで、海の向こうにも同じ目的の方がいると感じたりするのは刺激的です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

タイトルチェック(CC、学会ニュース、FDA/安全性情報)・投稿統括: 鶴田京子

皆様にはいつもお世話になっております。タイト

ルチェック担当を始め1年半ほど経ちましたが、いまだに難しさと奥深さを感じるばかりです。これからも、分かりやすいタイトルを目指し、頑張ります！どうぞよろしくお願いいたします。

メルマガ(ダイジェスト)担当: 重森玲子

2週間ごとにメルマガを発行し、読者の皆様に新着記事をお届けしております。今年もたくさんの方の記事がサイトにアップされ、情報を必要とする方々にメルマガという形で最新情報をお届けすることができました。今後も微力ながら貢献できれば幸いです。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

コクラン担当: 佐治京子

本年度も皆様にお世話になりました。いつも作業に時間がかかっておりご迷惑をおかけしておりますが、ご容赦ください。今後も JAMT の皆様の翻訳で信頼性の高い情報を早く届けることができるように尽力したいと思います。

コクラン担当: 大澤朋子

今年からコクラン担当になりました大澤です。翻訳者の皆さま、監修の先生方、いつもお忙しい中、ご協力を大変ありがとうございます。コクランは私にとっても勉強と情報収集の貴重な場です。これからもご無理のない範囲でご協力をお願い致します。

NCI 薬剤情報担当: 萬田美佐

タイトルチェック(CC、学会ニュース、FDA/安全性情報)・投稿統括: 金田澄子 野中希
助成金活動、NCI ガイドブック電子書籍化担当: 眞貫行 SNS 担当: 日ノ下満里
翻訳者管理アシスト: 白井千恵子

事務局スタッフ

運営統括/野中希
事務局/水野恵、川見佐知
会計/水野恵
収益部門翻訳コーディネーター/
鳥居塚千恵、今泉真希子

医療翻訳講座講師 石崎智子

Medical translation requires both language skills and professional medical knowledge. In JAMT medical translation classes, you can learn many useful tips on medical translation supported by JAMT supervisors. Come and join us for 2018 classes!

医療翻訳講座講師 今泉真希子

今年も意欲ある生徒さんと学びの場を共有することができました。A コースでは医療翻訳に必要な基礎知識を習得し、ステップアップコースでは様々な切り口から最新のがん医療に触れることができます。受講生の皆さんの知識や経験から教わることも多く、毎回活発な意見交換が行われ、私自身もたくさんの刺激を受けました。来年度も皆様のご参加をお待ちしております。

新理事 新監事ご紹介

東光久理事

福島県立医科大学

白河総合診療アカデミー 白河厚生総合病院 総合診療科

こんにちは。このたび理事を拝命しました東光久(あすまてるひさ)と申します。福島県立医科大学白河総合診療アカデミーに属し、白河厚生総合病院で総合診療科を立ち上げる一方、がんについては悪性リンパ腫、原発不明癌の診療や支持療法、看取り、チーム立ち上げなどに従事しております。

私の Vision は「医療者間をつなぐ存在になることにより、医療に関わるすべての人を幸せにする」ことです。がん医療

と市民をつなぐこの JAMT の活動は私にとっても天賦の役割と考えており、これからも皆さまと共に歩んで行くことを楽しみにしております。

尾崎昭子監事

乳がんに罹患した2008年、JAMT を知りました。情報の波に溺れかけていた私は、信頼できる発信元の医療情報が翻訳され、無償で公開されていることに驚きを覚えました。臨床試験の参加を迷った際にも大きな助けをいただき、被験者となりました。

信頼できる情報によって、がん患者は決断を続け前進することができます。皆様の活動に感謝をお伝えするとともに、何かお役にたてればと思っております。

8.事務局からのお知らせ

(事務局 Email:office@jamt-cancer.org)

●2017年 会計報告(1月~12月)
JAMTオフィシャルサイトへ
3月中に掲載予定です。

●書籍・テキスト販売

- ・米国立がん研究所(NCI)ガイドブック
「再発したとき」 300円
「がん治療後の生活」 400円
「がんの臨床試験(治験)ハンドブック」 500円
以上の冊子販売をしています。
ご希望の方は事務局までお知らせください。
- ・医療翻訳講座テキスト(改訂版) 会員のみ特別販売
定価5,000円→会員特別価格2,160円(税込、送料別)



販売代金、手数料のお振込先はこちらです。

- (会費振込先とは別口座になります)
- 【振込先】三菱東京UFJ銀行【支店】仙川支店
【口座番号】普通 0072693
- 【名義】一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ
シャ)ニホンガンイリヨウホンヤクアソシエイツ

●医療翻訳講座

「夏期集中講座」7~8月開講
「基礎実践講座」「ステップアップ講座」開講中
通信講座(基礎入門講座のみ)受付中
お問い合わせは事務局 office@jamt-cancer.org まで

2018年度年会費 お手続きのお願い

次年度は2018年4月1日から2018年3月31日となります。会費につきましては2018年3月25日までにお振込みをお願いいたします。
(会員資格についてはJAMT ホームページ(会員登録と寄付)をご確認ください)
【振込先】 ゆうちょ銀行 記号 10030 番号 78505391
一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ
他金融機関からの振込みの際は
【店名】〇〇八(読みゼロゼロハチ)
【店番】008 【預金種目】普通預金 【口座番号】7850539
* 退会をご希望の場合は、その旨必ずメールで事務局までご連絡をお願いします。引き続きみなさまのお力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

9.組織概要

名 称	一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ
所 在 地	〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-22 Landwork新宿ビル8F
連 絡 先	office@jamt-cancer.org TEL 03-3356-5710 FAX 03-5367-6032
設 立 年 度	2009年4月1日 一般社団法人 (2004年10月~任意団体)
ボランティア翻訳 所属メンバー (2018年1月現在)	ボランティア翻訳者: 131 名 監修者: 54 名

- ・ JAMT オフィシャルサイト <https://jamt-cancer.org/>
- ・ 海外がん医療情報リファレンス <https://www.cancerit.jp/>
- ・ Twitter アカウント JAMT: @jamt_cancer 癌リファ: @cancer_ref
- ・ Facebook ページ JAMT: jamtforcancer 癌リファ: cancerreference
医療翻訳講座: @jamtfortranslators

理 事 理事長 久保田 馨
医師/日本医科大学付属病院 がん診療センター/呼吸器内科
副理事長 野中 希
医療翻訳者、医学ライター
理事 東 光久
医師/福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー
白河厚生総合病院総合診療科
理事 後藤 倂
医師/国立がん研究センター 呼吸器内科
理事 辻村 信一
メディカルライター (獣医学/農業)

監 事 監事 久賀田 郁子 著述業
監事 尾崎 昭子

10.協賛企業

JAMTの運営支援をいただいた企業様に厚く御礼申し上げます。ご支援についてはJAMTオフィシャルサイト「JAMTを支援する」をご覧ください。

企業協賛 (順不同)

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
MSD 株式会社 日本イーライリリー株式会社
日本化薬株式会社 大鵬薬品工業株式会社
中外製薬株式会社

寄付 (助成金)

大日本住友製薬株式会社
アステラス製薬株式会社

発行: 一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ Japan Association of Medical Translation for Cancer (JAMT)
東京都新宿区新宿 2-15-22 Landwork新宿ビル8F TEL:03-3356-5710 FAX:03-5367-6032
Email:office@jamt-cancer.org 公式HP:<https://jamt-cancer.org/>
2018年2月/第9号